

# ウィーン大学日本学研究所 機関報告

マデルドナー めぐみ

機関名称 ウィーン大学日本学研究所  
所在地 Universitätsstraße 7, 1010 Wien, Austria  
創立 1939年、戦争による中断の後1965年に再設立

## 日本語教育の概要

ここでの日本語のクラスは日本学専攻の学生および通訳翻訳学科（但し、日本語は翻訳のみ）の学生を対象としており、日本学では、日本研究に必要な日本語能力養成を、翻訳科では、翻訳家としての即戦力を養うことを目的としている。オーストリア人講師一人と日本人講師二人が授業を担当し、最低3年のカリキュラムを組んでいるが、最初の2年間はかなりテンポの速い集中授業である。

1年目は日本語IA、IB各週4時間、ラボ2時間で、いずれのクラスもYoung and NakajimaのLearn Japanese 4冊を使用。IAにおいてはオーストリア人教師がテキストの翻訳および文法説明を主として行い、IBでは実際に日本語でコミュニケーションを行うことを目的に日本人教師が教科書にそった語彙、文法で身近な話題をあつかったタスク、聞き取り教材を自主作成。

2年目は、IIA、IIB各週3時間、ラボ1時間。IIAにおいては、漢字、広い範囲の語彙の習得を目的とし、さまざまなテキストを翻訳している。IIBにおいては、An Introduction to advanced spoken Japanese によって既習文法の復習をかねつつ語彙を増やし、1年目と同様にコミュニケーションを主体とした身近なテーマのタスク、聞き取り教材を教師が作成し、適時使用。また、テーマに沿った作文も随時書かせている。

3年目もIIIA、IIIB 各週2時間に別れ、IIIAにおいては日本の新聞に相当する様々なテキストの日本語を正確に読み、ドイツ語に訳せる能力を養う。IIIBにおいては、日本社会における様々な問題に関してテキストや新聞の記事を読み、それについて意見発表およびディスカッションを行っている。学期の最後には学生が自分で新聞記事からテーマを選び、それについて日本語で発表を行うことになっている。

なお、法律上、必修時間数に制限があるため、1年生のラボとIIBが形のうえではやむなく選択となっているが、事実上必修科目扱いをしている。

学生は3年終了時まで常に常用漢字の読みと意味を覚え、その試験に合格しなければならない。そのため、1、2年の学生には選択で漢字の字源、読み、意味について教授する漢字クラスがある。その他日本の政治、社会、文化に関する講義が用意されている。

翻訳課の学生は、これらの日本語の授業の他に新聞雑誌の記事、自然科学や技術の専門記事の翻訳訓練を行うために独文和訳、和文独訳のクラスを、日本学専攻の学生は漢文、文語（古典）をとらなければならない。

4年生以上の学生には日本語Ⅳ、会話、自然科学日本語などの選択クラスが設けられている。

3年生からゼミ、講義など日本学中心のカリキュラムとなり、日本語そのものの授業の時間数は少なくなる。

学生数は日本語Ⅰが約40人、Ⅱ、Ⅲがそれぞれ20～30人である。

日本語Ⅰ～Ⅲはオーストリア人1人と日本人2人の講師が担当しているが、そのうち日本人1人は2年ごとに日本から国立国語研究所研で長期研修を受けた教師を招へいしている。また、日本語Ⅳ、翻訳のクラスは、オーストリア人1人と日本からの客員教授1人が担当している。